

教育・研究等業績一覧

履 歴						
フリガナ	ヤマダ カツミ	性別				
氏名	山田 克己	男	生年	1958年		
所属	保育学科	身分	教授			
学 歴						
年 月	事 項					
1986年3月	北海道拓殖短期大学（現 拓殖大学北海道短期大学） 保育科 卒業					
1987年3月	北海道教育大学旭川分校 情緒障害教育教員養成課程 修了					
2004年3月	佛教大学 教育学部教育学科 卒業					
職 歴						
年 月	事 項					
1987年4月	学校法人山の手学園 平和幼稚園 勤務					
1999年3月	学校法人山の手学園 平和幼稚園 退職					
1999年4月	学校法人北工学園 旭川福祉専門学校 勤務					
2004年3月	学校法人北工学園 旭川福祉専門学校 退職					
2004年4月	拓殖大学北海道短期大学 保育科 専任講師					
2006年4月	拓殖大学北海道短期大学 保育科 助教授					
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学 保育科 准教授（職位名改称）現在に至る					
2015年4月	拓殖大学北海道短期大学 保育科 教授					
教 育 業 績						
1 担当授業科目（2019年度）						
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考	
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（1年）	302	前期	火	1		
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（2年）	201	前期	金	4		
保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（2年）	201	前期	火	3		
特別研究	301	前期	金	2		
保育実践演習	301	前期	火	2		
言語（A）・（B）	303	前期	月	1・2		
領域言葉（A）・（B）	体育館・103	前期	月	2		
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（1年）	302	後期	火	4		
保育実習指導Ⅰ・教育実習指導（2年）	302	後期	火	3		
特別研究（身体表現）	301	後期	金	2		
保育実践演習	204	後期	火	2		
保育内容研究Ⅳ「言葉」（A）・（B）	絵画工作室	後期	木	3・4		
総合芸術	体育館	後期	月・金	5		
総合芸術表現	体育館	後期	月・金	5		

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>昨年まで展開されていた身体表現コースの基礎科目入門は4名の教員で展開されていたが、今年度より特別研究と名称が変わり一人で担当する形となった。指示系統が一本化されたことにより、学生の混乱が殆ど見られなかった他、一人ひとりの学生とのコミュニケーションが密になり、コースとしてのまとまりを感じる事ができた。また、在籍している学生数が減少したことにより、従来は2チーム編成で行っていた子ども向けミュージカルを1チーム編成で行った。その結果、演技練習を観る時間が大幅に増え、目標としていた羞恥心を取り除く事ができた学生が急増した。また、公演回数が増えた事により、PDCAが機能し、ミュージカルのクオリティを向上させる事ができた。</p> <p>新カリキュラムの移行年であったため1・2年生の授業内容が酷似する教科が生まれ、経験や知識量の違いがはっきりと表れた事により、次年度の目標が明確になった。</p> <p>保育内容研究IVにおいては、様々な保育場面を想定し、より適切な言葉かけを学生に考えさせたが、実践経験が無い中で行う難しさを実感した。しかし、後期の模擬保育に直結する内容であったため、後にこの経験を生かす事ができた。</p>
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>通年科目である特別研究(身体表現コース)の授業評価を初めてとった。ほぼ全員が授業に満足していると回答し、拡大ミュージカルにおいてキャストを希望した学生全員が、この経験があったからこそキャストに挑戦しようと思ったと言っている。学生数の減少は拡大ミュージカル参加者の減少に直結しているため、キャスト希望者が一人でも多く現れるよう、授業の進め方に工夫が求められる。楽しく授業を展開する事も重要であるが、自分自身の成長を実感できる体験をさせる事へエネルギーを注ぐ必要がある。更には授業間リンクをしている身体表現演習Iを担当する事になり、上記の実践を展開しやすくなった事を生かしていきたい。</p> <p>言葉に関する授業が中心であるが、言葉の根源となる思考に対して学生の興味関心を引き出せるようにしたい。また、保育現場に行ってから活用できる「何でもカルタ」「パネルシアター」等の教材作成にも力を入れていきたい。</p>
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(2006) 子ども向けミュージカル「ミュージック王国～アニメの秘密～」の脚本・音楽を作成 ・(2007) 子ども向けミュージカル「ミュージック王国～アニメの秘密～」を幼児用台本に改定 ・(2008) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」の脚本・音楽を作成 ・(2009) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」を幼児用台本に改定 ・(2010) 子ども向けミュージカル「いじめハンターASOBI 隊」の脚本・音楽を作成 ・(2012) 子ども向けミュージカル「心のアンサンブル」の脚本を作成 ・(2013) 子ども向けミュージカル「忍者塾HIRAKU」の脚本・音楽を作成 ・(2014) 子ども向けミュージカル「タークダーウィン魔法学校」の改訂脚本を作成 ・(2015) 子ども向けミュージカル「心のアンサンブル」の改訂脚本を作成 ・(2016) 子ども向けミュージカル「リズムック王国～パークスの扉」の脚本・音楽を作成
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<p>○子ども向けミュージカル、歌、ダンス、ジャグリングのパフォーマンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神楽岡保育園クリスマス会ボランティア・宮前認定子ども園クリスマス会ボランティア ・東神楽幼稚園子ども向けミュージカル公演
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	
<p>研 究 業 績</p>	
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児にとっての模倣力と社会性との関連をまとめ、模倣力を育てるためのプログラムを構築する。 ・DTMを使用することにより、幼児の音楽及び発表会などの行事にそれをどう役立てるか考察し実践する。 ・子ども向けミュージカル活動を通して、学生達の表現力をいかに豊かにすることができるか、その方法を身体表現コース特有の実技系科目としっかりとリンクさせ見出していく。活動内容をDVDや活動記録集に収める。 ・ミュージカル活動を通して、学生の表現力・段取り力・人間関係調整能力・創造力・集中力・協調性などの様々な能力を引き出し育てるプログラム作り。 ・身体表現コースの運営方法を他のコースとのバランスを取りながら考察する。 ・保育現場において障害児を受け入れるにあたっての体制作りと、対応の方法。 ・保育の方法とその意味について、子どもと教師の両側面から捉えたテキスト作成 ・「幼児期運動指針」に挙げられている28種の動きを、日常の活動の中に取り入れ実践し、その成果をまとめる。

2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・随意運動発達検査を活用し、手遊びやフォークダンス感覚で使用できるプログラム作り。 ・保育の教材化をねらいとしたミュージカル活動の実践 ・表現力を高めるためのプログラム作り ・幼児を対象としたミュージカル制作 ・保育園・幼稚園における自由活動のあり方 ・「幼児期運動指針」に示された28種の動きをとり入れたプログラム作成 ・新卒者の仕事に対する意識調査 			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 (2) 学内 (3) 学外			
4 資格・特許等 (主要3件以内)	保育士資格 幼稚園教諭2種免許 養護学校教諭1種免許			
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行又は発表雑誌等又は発表学会等の名称	要約
保育士養成校における総合教育実践活動の教育的効果について一表現活動ではなく総合教育活動一であることの必要性	共	2004年	日本音楽教育学会	ミュージカルやオペレッタなどの活動は、舞台を活用した「表現活動」として位置づけられていることが多い。しかし、活動の中身は、段取り力・人間関係調整力・集中力などが養われる要素が充分に含まれており、総合された教育活動であることを提言している。
保育士養成校における教育活動としてのミュージカル・オペレッタ活動の一考察～2校における教師の関与比較から～	共	2004年	日本音楽表現学会	本校と他校での取り組み方を紹介するとともに、それぞれの学校における教師の関与量が違うことよっての長所と短所及び今後の課題を明確にした。
保育科学生によるプチミュージカル制作の実践報告～保育の教材化に結びつく作品作り～	単	2005年	日本音楽教育学会	学生が中心となって行う創作ミュージカルを幼稚園や小学校でも取り入れることができるよう意識をして制作。作品内容に子どもたちが参加できる場面を多くとり入れることにより、保育実践に類似したLive感覚を味わうことができた。
保育士養成校における教育活動としてのミュージカルの一考察 活動時間の抑制が及ぼした影響について(拓殖大学北海道短期大学の事例から)	共	2005年	日本音楽教育学会	活動時間を大幅に抑制したことよっての様々な影響を挙げ、今後の取り組み方を見いだす。決められた時間内で完成させなくてはならない体験を学生も指導者もすることにより、それぞれの立場で翌年の目標が見えた。
ミュージカル活動における指導体制改革とその効果 拓殖大学北海道短期大学の事例から	共	2005年	日本音楽表現学会	これまでの21年間の指導体制を示すと共に、改革するに至る経緯と改革をしたことによる効果を挙げている。
「創作ミュージカル活動」の実践 一課外活動から授業化に至るまでの変遷と改革	共	2005年	日本音楽教育ジャーナル	一人の教員と学生達で構成された自主活動としてスタートしたミュージカル活動の変遷を綴りながら、学校及び地域に認められ最終的には授業化され市からの助成金を頂くようになった活動の目指す方向を示している。
保育科学生によるプチミュージカル制作の実践報告～2年間の活動比較と今後の展望～	単	2006年	日本音楽教育学会	制作方法が1回目と2回目にどのような違いがあったのか。変えたことよっての成果はどのような形で現れたのか。3回目へ向けての展望などについて報告している。
ミュージカル活動における指導体制改革とその成果(再参加率を中心に) 拓殖大学北海道短期大学の事例から	共	2006年	日本音楽教育学会	2年生の再参加率が8年ほど前より減少し続けている減少に着目し、その原因を解消すべく大改革を断行した。その結果、再参加率は激増し、伝統とも言える2年生から1年生への伝承行為が復活した。
「踊ってあそぼう」～模倣力が子どもを育む～	単	2009年	拓殖大学北海道短期大学後援会	踊りの振りを単なる振りとして捉えるのではなく、ごっこ遊びの要素を多く取り入れ、子どもの「なりきり」を上手く引き出しながら展開することが望ましい。

学生ミュージカルにおける学生の変容 ～歌唱に注目して～	単	2012年	日本音楽表現学会	ミュージカル活動のキャストは大きく変容するが、歌唱においてはその役になりきれた時点からはっきりとした変化が見られる。すなわち、演技と歌唱には相関関係があり、指導する側はそこに着目する必要がある。	
特別な対応が必要な子どもに対する機関連携をめぐる諸問題 —就学前幼児療育機関と学校教育の連携— その4 過疎地域における幼稚園・保育所と特別支援学校との連携の実情と課題	共	2013年	札幌学院大学 人文学会紀要 第93号	北海道の過疎地である5つの振興局管内の幼稚園と保育所では、どのような特別支援教育（保育）が行われているかについて、アンケート調査を行った。その結果、幼稚園と保育所において実質的な違いは無かった。また、特別支援を充実させる為には特別支援学校との連携を密接にするなどの省庁管轄を超えた協力体制や地域ネットワークの充実が有効と言える。	
学生の実態に即した保育実習日誌作成の取り組み	単	2013年	拓殖大学人文・自然・人間科学研究31号印刷中	本学の学生にとって最も適した実習日誌の様式を作成する為に1、2年次に行う保育・教育実習後に平成19年から25年までアンケート調査を行いその都度改訂をしてみた。その結果8割以上の学生が内容の質を落とさずに2時間以内で記述できる様式が完成した。またその様式が全道の養成校で統一したものとなり、改訂に取り組んだ成果が現れた。	
幼児センターにおける保育実践 ～運動遊びと言葉遊び～	共	2018年	拓殖大学北海道短期 大学研究紀要創立 50周年記念号	3、4、5歳児が言葉や文字や数字に対し興味関心を促す取り組みとして、愛別幼児センターにて年4回研究実践保育を展開した。方法としては、保育者が一定のリズムに合わせて話す物の名称を聞いた子どもが、同種の場合は手を打ち異種の場合は手を打たないというルールを即時反応ゲームを行うことにより、語彙数を増やしていく実践研究。文字・数・絵のカードを使用し単純なカード取りの他に、運動要素を多く取り入れた活動を意識して展開し、よりゲーム性の高い展開にする事で、幼児が楽しく文字や数字を覚えられる工夫について実践研究したもの。	
研究業績（過去3カ年分）				国際的活動の有無	社会的活動の有無
著作数	論文数	学会等発表数	その他		
0	1	0			
学 内 運 営 業 績					
1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	教務委員会副委員長				
	自己点検・評価委員会副委員長				
	作業部会長				
学 外 活 動 業 績					
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通じた活動 (主要10件程度)	愛別幼児センターフロアリズム講師（年4回）				
	旭川福祉会理事				
	教育委員会より委託された「教育アドバイザー」				
2 学会・学術団体等の活動 (主要10件程度)	日本音楽表現学会				
	北海道乳幼児療育研究会				
	北海道子ども学会				